

## 第6学年 道徳科学習指導案

日 時 平成29年10月12日(木) 2校時

指導者 教育センター所員 山崎 秀隆

1 主題名 きまりを守るとは【内容項目C-(12)規則の尊重】

2 教材名 ここを走れば(出典「光村図書」6年)

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

誰もが安心して、安全な生活を送るためには、一人一人が互いの権利を尊重し、理解し合うことが大切である。しかしながら、個人の権利を主張しすぎると、社会全体の安心、安全な生活を脅かすことにもなりかねない。その秩序を保つためにも、きまりや法の意義を理解し、守ろうとすることが大切である。誰にでも、きまりや法を守らなければならないという気持ちはあっても、自分の都合を優先させたいという心の弱さは存在する。その気持ちを乗り越え、周りの人のためや自分のために、きまりや法を守っていききたいという心情を育むことは大変意義深いことである。

○児童の実態について

本学級の児童は、4月に行った道徳的価値の意識調査における「なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切にし、守ろうとしている」という質問に対し、64%が「よくできている」、28%が「だいたいできている」、8%が「あまりできていない」と答えている。できている理由では、「守っているから」と漠然としたものが多く、具体例を挙げている児童は少数であった。できていない理由は「ついやぶってしまう」「あまり理解できない」と記述していた。また、きまりが何のためにあるのかよく考えている記述もあり、このような児童の思いを全体に広げ、きまりの意義について考えを深めさせたい。

○教材の活用について

本教材は、倒れた祖父が存命のうちに会うために、本来走ってはいけないと決められている高速道路の路側帯を走ったほうがよいのかどうか考えさせる葛藤教材である。

「ぼく」は離れたところに住む祖父が倒れたという知らせを受け、父の車に乗り、早く会いたいという一心で急いで祖父のもとに向かう。しかしながら、高速道路では事故があったらしく、二十キロメートルにわたって渋滞しているという情報が入る。その時、左側の路側帯を走っていく車が目に入る。自分たちも急いでいるから路側帯を走れないのかという気持ちを父に伝えるが、父は走ろうとはしない。結局、病院についたのは予定より遅れ、祖父はすでに亡くなっていた。

祖父に生きて会うためには、きまりを破ってでも路側帯を走るべきだったのではと考える「ぼく」と祖父に生きて会うことができなかつたがきまりを守り通した父の姿を通して、きまりの意義について理解を深めることができると思う。

きまりは何のために存在するのか、そして何を大切に考えてきまりを守ろうとするのか考えさせるという視点で資料を活用したい。

○指導の重点

導入では、身の回りにあるきまりを想起し、それらを守ったり守れなかつたりする自分を見つめさせることで、きまりの意義について考えていこうとする意識を持たせたい。展開では、児童が状況を把握しやすいように写真や挿絵を示しながら教材を読み聞かせる。その後、何が問題になっているのかを問い、路側帯を「走ればよかった」のか「走らなくてよかった」のかについて自分の考えとその理由をワークシートに記述させる。次に、ネームプレートを黒板に貼ることで、自分の考えと全体的な傾向を確かめさせ、友達と意見を交流したいという意欲を高めたい。意見交流では、ペアやグループで互いの考えを受け止めさせることで自分の考えを広げ、全体で自分の考えを深めさせたい。さらに、きまりの意義について学んだこととこれからの自分について考え、記述させることで、きまりを意識して生活していきたいという気持ちを持たせたい。終末では、「わが子にきまりについてどのように考えてほしいのか」というある母親のメッセージを聞くことで、きまりを守ろうとする力、自分の判断を信じる力を持つようとする気持ちを高めたい。

4 ねらい

父の行動からきまりの意義について考え、周りの人や自分のためにきまりを守って生活していこうとする心情を育てる。

5 指導の視点

- ・これまでの経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、考えさせることができたか。
- ・多面的・多角的に考察し、自己の考えを広げ、深めさせることができたか。
- ・学んだことを生活の中で実現していこうとする思いや願いを持たせることができたか。

6 展開

	学 習 活 動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点 <small>予想される児童の変化(教師の願い)</small>
導 入 ／	1 身の回りのきまりについて考える。	○身の回りのきまりをきちんと守っていますか。 [守っている] ・守らないといけないから。 ・まわりに迷惑をかけないように。 [守れないこともある] ・つい忘れてしまう。 ・友達につられてしまう。	・身の回りがあるきまりをいくつか想起させた後、それらをどのくらい意識して生活しているか考えさせる。  きまりを守って生活しなければならぬ気持ちはあっても、守れない心の弱さもあることを感じている。 ・気持ちと行動の矛盾点から、きまりの意義について考えることを知らせる。
	きまりは何のためにあるのか考えよう。		
展 開 ／	2 「ここを走れば」を聞き、話し合う。 【書く活動①】  【話し合い】 ペア・グループ ↓ 全体	○あなたは、路側帯を走ればよかったですか。その理由も書きましょう。 [走ればよかった] ・おじいちゃんに生きて会うことができているかもしれないから。 ・おじいちゃんも会いたかったと思うから。 ・他の車も走っていたから。 [走らなくてよかった] ・本当に困っている人の迷惑にならなかったから。 ・事故に遭った人の命を助けることができていると思うから。 ・人に迷惑をかけることを嫌うおじいちゃんだったから。	・状況をつかみやすいように、挿絵を示しながら読み聞かせ、何が問題になっていたのかをつかませる。 ・どちらかを選択させ、その理由までワークシートに記入させる。 ・ネームプレートで立場を可視化し、全体的な傾向を確認させる。 ・ペアやグループで意見を交流した後、考えが変わったら、ネームプレートの色を変えて貼り直させる。 ・全体的な傾向を見ながら、自己の考えを出させ、それぞれに考えを深めさせる。  きまりを守ることが何を守ることにつながっているのか考え、きまりの意義について深く考えようとしている。
	3 きまりの意義とこれからの自分について考える。 【書く活動②】	○今日の学習で学んだこととこれからの自分について書きましょう。 ・きまりはみんなのためにあると思った。みんなのためにきまりを守っていきたい。 ・きまりは命を守るためにある。きまりを守ることで命を守りたい。	・きまりが何のためにあるのか、これからの自分はどうしていきたいかという視点でワークシートに記入させ、隣の児童と考えを交流させる。  学んだことを意識しながらこれからの生活を送っていきたいという気持ちを持ち始めている。
終 末 ／	4 ある母親のメッセージを読む。	○あるお母さんのメッセージを紹介します。	・メッセージに込められた思いを感じることで、日々の実践への気持ちにつなげさせる。